

## 令和3年度 公開講座（短期課程）

担当科名	機械システム系メカトロニクス科
担当者名	山口俊憲
講座名	中小企業のための生産改善・革新セミナー (1)品質管理 ～データに基づく品質管理～
実施日時	① 令和3年5月12日（水） 18:00～21:00
	② 令和3年5月19日（水） 18:00～21:00
	③ 令和3年5月26日（水） 18:00～21:00
	④ 令和3年6月 2日（水） 18:00～21:00（計12時間）
募集定員	6人（申込者多数の場合最大10名程度まで）
募 集 対 象	対象職種：不問（事務系・技術系を問わず様々な業種・職種の方が参加可能）
	受講に必要なレベル：不問（受講生の状況・希望に応じて内容を調整）
注 意 点	<p>中小企業のための生産改善・革新セミナー(1)～(7)は企業などの現場改善を行う同一講師が全て担当しています。(1)～(7)の全てを受講することで、ものづくり改善に必要な知識を体系的に習得できますが、各講座を単独で受講しても理解できるような工夫をしています。例年、一つの講座を受講される方、全て受講される方、数年かけて全てを受講される方がいらっしゃいます。また、このセミナーは社会人を対象とした1年課程の「産業技術専攻科ものづくり改善コース」と一部連携しています。現場の課題解決に具体的に取り組みたい方は<u>産業技術専攻科の活用</u>もご検討ください。</p>
講 座 内 容	<p>生産性・品質・安全性の向上には、現場から管理者まで様々なレベルにわたる人々が品質管理の理解や改善手法を習得するだけでなく、ものづくりに対する見方を変えていく必要があります。</p> <p>本講座では、はじめて品質管理を学ばれる方から現在携わっている方まで様々なレベルの方を対象に品質管理の基礎から実践まで（現場からどのようなデータを採り、それをどのような分析し、活用するか）を学びます。また、受講生との対話を通して、現場で発生する実際の課題への対処方法についても具体的な検討を行います。分析を行う際、要素に分解するだけでなく、要素間のつながりを考えることが必要になっています。この要素間のつながりを検討するための手法についても紹介します。</p>
目 標	<p>現場において品質管理の手法を活用し、品質改善に取り組む事ができる。</p> <p>品質管理手法の使い方について現場作業員に対して教える事ができる。</p>
履 修 項 目	<p>①生産とは、品質管理の視点から考える (2時間)</p> <p>②品質検査、品質管理、品質保証の違い (1時間)</p> <p>③データのとり方・見方、平均とバラツキ (3時間)</p> <p>④QC七つ道具（層別、ヒストグラム、管理図） (3時間)</p> <p>⑤新QC七つ道具を用いて要素間のつながりを探る (1時間)</p> <p>⑥現場での活用方法（事例紹介・検討） (2時間)</p>
使用装置 ソフト・ 図 書 等	特になし

受 講 費	受 講 料：6,000 円（12 時間コース）		
	自己負担：                      円（テキスト：                      円・材料費：                      円）		
講座費用	報 償 費                      円	印刷製本費                      円	材 料 費                      円
	費用弁償                      円	消耗品費                      円	通信運搬費                      円
	普通旅費                      円	使用賃借料                      円	
そ の 他	<p>○ 単位互換について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中小企業のための生産改善・革新セミナーの(1)品質管理、(2)生産管理の2つを受講することで、機械システム系の生産工学への出席を免除する。但し、試験やレポートの提出を求める場合がある。</li> <li>・ この講座を受講することで、産業技術専攻科ものづくり改善コースの「統計・品質管理」の受講を一部免除する。</li> </ul> <p>○ 講師と講座について</p> <p>本セミナーの担当講師は大学・大学院で経営工学を専攻し、その後約 20 年、生産など様々な現場の改善に取り組んできています。また、このセミナーは社会環境の変化や講師が生産改善に取り組んだ成果などに基づき数年に一度大きな変更を加えながら 10 年以上開講し、延べ 700 名近い方が受講しています。</p> <p>○ 新型コロナ対策について</p> <p>基本的に対面での実施を予定しておりますが、状況に応じて遠隔などで実施することがございます。</p> <p>*例年、定員を超える申し込みを頂いているため、最大受け入れ人数を 10 名とした。</p>		